

# 振動を利用した 溶接残留応力低減法に関する研究

## 研究目的

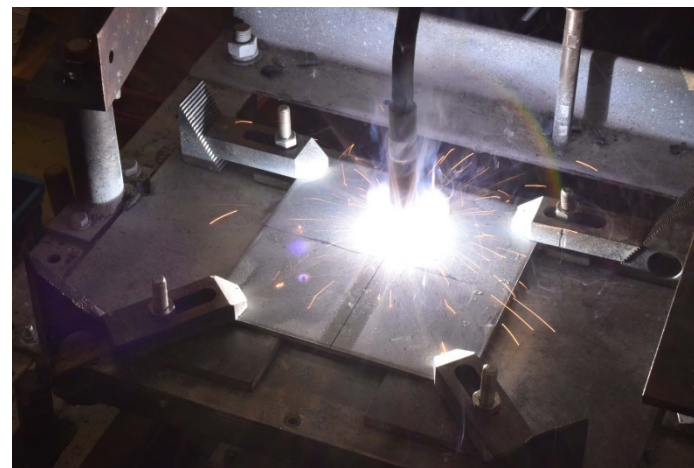
本研究で提案している、振動を利用した溶接残留応力低減法が、重要構造物などで使用するステンレス鋼に対して有効に作用するか定量的に調査する。

## 背景

一般構造用圧延鋼材と比較して、ステンレス鋼は融点が高いため、溶接時に発生する残留応力が高くなる可能性が予測されることが背景にある。

## 期待される成果

本手法の有効性が確認でき、かつ定量的な評価が可能となれば、大型構造物の施工現場で簡便に使用でき、残留応力が低減可能な溶接装置の開発につながる。



肉盛溶接の様子(ステンレス鋼)

## メンバー

高専側 教員:栗田勝実  
(品川) 学生:中里 晃

大学側  
(産技大)教員:越水重臣  
学生:松山 剛